

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0 1 7 2 0 0 1 0 2 6		
法人名	有限会社 イマージュ		
事業所名	グループホーム 夢あかり		
所在地	小樽市長橋3丁目17番17号		
自己評価作成日	平成 26年 1月 15日	評価結果市町村受理日	平成26年4月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0172001026-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人に合ったケアを重点的に考えており、ご家族からの積極的な協力や近所の方々との日常的な交流もあり、利用者様の暮らしが地域に根付いたものになっている。近隣のグループホームとも交流があり防災面での協定を結んでいる。花見や果物狩りなど季節の行事を企画したり、喫茶店や外食などの利用者が楽しめる場所にも出かけています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26年 2月 12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、小樽市郊外の交通の利便性が良く、閑静な住宅地にあります。また、建物の周囲には公園があり、四季折々の景観を楽しめる自然環境にも恵まれています。ホーム内は手作りの装飾やソファ・椅子を随所に設置し、ゆったりと自由に過ごせる家庭的な雰囲気の中で、利用者が明るく楽しそうに暮らしています。また、開設当初より周辺住民との交流を大切にしており、保育園児や小学生・ボランティアなどの訪問を受けたり、町内会行事やホーム行事へ相互交流を行うなど、利用者は地域の一員として生活しています。管理者を中心として丁寧に作成された介護計画に基づくサービスは、思いやりと温かみがあり、利用者と職員の信頼関係が築かれています。また、各種委員会活動では職員個々の能力が発揮できるシステムとなっており、利用者のサービスの質の向上を目指したホーム運営をしています。
--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内の見やすい場所に掲示して、毎日申し送り時には職員全員で復唱し理念を共有し実施につなげている。パンフレットや広報誌にも載せている。	理念を施設内に掲示すると共に毎朝の申し送りの場で唱和し、職員は利用者の思いに寄り添い心を受け止めたケアを実践しています。家族などに配布するホーム便りなどにも理念が記載されています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方々とは挨拶を交わすだけではなく年間を通じて日々様々な交流があり、雪投げや草取り、山菜や野菜をあげたり頂いたりホームに気軽に訪問してください。町内会の学習会に利用者が参加したりホームの祭りやクリスマス会に地域の方々が訪問してください。	利用者が町内会の行事や学習会に参加したり、事業所の夏祭りなどの行事や防災訓練などへ地域の方が参加しています。また、保育園児や近隣のグループホーム利用者と相互訪問するなど地域との交流が活発に行われています。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの行事の時には介護相談会を開催し、年に1、2度介護についての勉強会を開き認知症の人への理解・支援に向けて活かしている。町内の行事、清掃、廃品回収、		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括センター職員・地域の方々の参加も多く、防災・介護の実践、行事などをテーマに活発に意見交換している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市のグループホームの集団指導に参加して行政の方と情報交換したり、介護保険課・生活保護課の職員の方に必要時には相談・協力をして頂きサービスに活かしている。	管理者は、毎月市の介護保険担当窓口を訪れるなど連絡を取りながら運営上の課題などを随時相談しています。また、管理者と地域包括支援センター職員が町内の認知症の学習会の講師をするなど協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を毎月開催しており、職員全員が正しく理解できるように具体的な行為について話し合い周知できるようにしている。玄関は夜間、夜勤者が一名の時間帯のみ施錠している。	身体拘束虐待廃止委員会が中心となり、全体会議や申し送り等を通して日々のケアで身体拘束や虐待につながる言動がないか確認しています。また、マニュアルを作成したり、外部研修会に参加した職員が内部職員に伝達するなど職員の認識を高める取り組みをしています。玄関は夜間のみ施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、身体的な例について自分達のケアを振り返り意見交換を行い防止に務めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームでは成年後見人がついている利用者様があり、年に数回後見人が来て入居者様と立ち会い話をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は勿論の事、利用者様又は御家族の方々に不安などがあった場合、その都度、代表者・管理者・職員が話を聞き対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族の方々にどのようにしてホームで暮らして行きたいのか入居前や入居後に意見・要望を聞いて反映させている。	利用者の意見や要望は日常会話等の中から記録し、実現化できるものは、実施にむけて協議しています。家族の意見や要望の聞き取りは来訪時や電話連絡時、担当職員が毎月家族に送付するホーム便りを通して行っています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回、全体会議や各委員会を開き、その都度意見が出たら話し合うようにしている。他、カンファレンスを月に一回以上開催し話し合っている。	毎月開催する全体会議や朝夕の申し送り、週2回のカンファレンスなどを通じて職員の意見や提案を聞いています。また、代表者及び管理者は必要に応じて随時個人面談を行い職員個々の意見・要望等を聞いています。また、教育、衛生、広報、レクリエーション・行事、虐待廃止などの委員会からの提案を積極的に取り入れています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、管理者、職員に休み希望があった場合、決まった期日に休み希望を提出し、調整がつけば休みが貰える。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に職員が外部で研修会を受け、資質の向上に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所と年に数回・行事などで交流を深めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を解すする前に本人が困っている事、不安・要望等に耳を傾け関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を解すする前に御家族様が困っている事、不安・要望等に耳を傾け関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で必要としている支援を見極めて対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人を介護される一方の立場に置かず本人と共に過し支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様と御家族様の絆を大切にしながら利用者様と共に支え合う関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が大切にしてきた人や場所との関係が継続されるよう支援に努めている。ご家族だけではなく友人や近所の方々、宗教活動の継続、病院の先生や理容室、美容室の担当の方など、本人にとって今まで大切にされてきたものの継続。	利用者の希望に応じて馴染みの商店や理美容院などへ出かけたり、利用者が住んでいた地域の祭りに出かけたりしています。また、家族、知人、友人が訪問しやすい雰囲気をつくり気軽に訪問していただくなど、これまでの関係が継続できるように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で一人一人が孤立せず支え合えるような利用者様同士の関係の支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	困った時等、相談にのったり支援をできるよう努めている、協力の依頼があったときはすぐに対応しており、ご家族もホームや入居者に協力してくださっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いや意向を時間をかけ、お聞きするように努めている、本人がなかなか困難な時はご家族にも協力していただき、本人の希望する暮らし方に努めている。	日頃の利用者の言動や家族の来訪時並びに電話連絡時に希望や意向を聞き介護記録とすると共に職員間で情報交換を密に行い、介護計画に反映したりケアの実施に向けた取り組みをしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様にご協力頂きながら情報収集し、職員間で情報の共有を行えるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気付いた点があればその場で話し合い把握し、申し送り時にも報告し職員が周知できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回以上カンファレンスを開き、職員同士で話し合い日々のケアや介護計画に反映している。	介護計画はケアマネジャーや担当職員が中心となり利用者並びに家族の意向に添って作成し、3ヵ月毎に見直しをしています。さらに、毎月のカンファレンスでは随時見直しをしてきめ細かなケアを行い、記録をしています。ただし、介護計画と連動した内容になっていません。	介護計画に対するケアの実施記録がなされ、それに基づくモニタリング結果が次期の介護計画に反映される流れになっていくことが更なるケアの質の向上に繋がりますので、ケアの実施記録を工夫されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りや、気付いたこと等の情報を個別ノートに記載し情報の共有を行っており、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り支援できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	婦人部主催の研修への参加など暮らしを楽しめるよう支援している。近所の幼稚園より園児の来所、近所のグループホームとお祭りなどの交流を楽しみにされている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前より通院していた医療機関への受診継続、ホーム協力医療機関からの適時支援も行なっている。	利用者・家族の希望でかかりつけ医を決めています。受診時は職員が同行して受診支援をしています。協力医療機関は月2回往診し健康管理や診療を行っています。また、看護師が週2回利用者の健康管理を行い適時医療機関と連携しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護師が周に二回以上勤務し個々の健康状態を把握し適切な看護を受けられるよう健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連絡を取り、情報交換や相談を行い、早期退院できるよう準備整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期を向えた場合、ホームで出来ることを説明し理解して頂き相談行いながら支援に取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期の対応について説明し、重度化した場合は利用者や家族、医療機関と話し合い利用者並びに家族の意向を尊重し医療機関を選択し連携しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防職員指導の下、一般救急救命の講習を年一回以上行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署協力の下、夜間を想定した避難訓練を行なっている。	消防署の協力を得て夜間想定避難訓練を実施し、町内会や近隣グループホームとの協力体制を構築して住民も参加しています。さらに毎月防火自主点検を行ったり、地震、停電に対応する備蓄品を整備しています。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねないよう排泄・入浴等の介助を行うよう努めている。	利用者が希望する呼称、リビングでの会話の音量、介助時の声かけなど、職員が利用者の人格やプライバシーを損なうことにつながる言動をしないように日々話し合いをしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定や選択ができるよう声がけ等場面作りを行うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースや希望に出来るだけ添えるよう対応し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみが整えられるよう対応し、訪問理容・美容等支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけは職員と一緒にっており積極的に行なっている。外食の時はご家族の協力もあり楽しみにされている。	食材は外注ですが献立は職員が利用者の好みや栄養バランス、食事形態に配慮しています。また、誕生日や季節行事食なども考慮しています。職員は見守りながら一緒に食事を摂り、利用者は下ごしらえや後片付けなどを手伝っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた食事形態、量を工夫して提供している。水分は体調を考慮し、提供しており、毎日摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に声がけし口腔ケアを行なっている。義歯は毎晩預り消毒している。カップ、歯ブラシも週一回消毒を行なっている。定期的に口腔内の検診、衛生状態を見てもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人排泄パターンに合わせ誘導している。尿・便意あれば職員に声がけしてもらい誘導している。	利用者個々の排泄リズムを把握しトイレで排泄するようにし、極力オムツを使わず布パンツとパットを基本に支援しています。排泄介助時は耳元で小声で話かけるなどプライバシーに配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄に繋がるよう、食物繊維のある物を工夫し提供するよう努力している。また、水分等も摂取にも努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に必ずバイタル測定行い、各数値安定していることを確認して実施している。入浴中、入浴後の体調確認を行なっている。入浴剤などもその日の希望を聞いて変えている。	週2回を基本に午前と午後の時間帯や順番、利用者の入浴習慣、同性介助の希望などを尊重して対応しています。体調不良時や入浴を拒む場合は利用者の状態や意向に応じて柔軟に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調に合せ臥床、睡眠ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬ファイルがあり職員が常に確認できるようにしている。服薬時は日付等の確認し、本人の前で再度確認行い、服薬後も職員2名で日付等確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や皆さんと一緒にのレクリエーションだけではなく、家事、畑作り等一人一人に合った役割での参加や季節に合った行事や外出・外食レクリエーションに参加していただき楽しんでもらえるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	積極的に戸外に出ていける様時間を作ったりしている。又、個別で希望の場所へ外出支援も行なっている。	日常的には公園等の散歩や利用者の希望に沿って外食並びに買い物などに出かけています。また、レクリエーション・行事委員が中心となり季節感を取り入れた外出行事を毎月実施しており、普段は行けない果物狩りや水族館などの外出が利用者の楽しみになっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状況に合わせ希望に添って支援、介助をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙、年賀状など希望に添って支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせて、飾りを変えている。また、日常的に音量、光量、湿度、温度等の調節を行い快適な空間作りを意識している。	リビングは広い窓から暖かい陽ざしが入り、利用者同士がテーブルを囲んでゲームを楽しんだり、食事やおやつを食べています。また、廊下やリビングにソファや籐のテーブル・椅子、観葉植物を置いて利用者が一人で寛げるコーナーになっています。バリアフリー構造の共用スペースは、歩行器や車いす利用がスムーズで利用者の安心・安全に繋がっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人、希望の場所で過ごしていただけるよう配置等工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様、ご家族様が持参して下さった昔から使われて居た物を置き、落ち着いて過ごして頂けるよう配慮している。	利用者が馴染んだ家具、仏壇、思い出の写真などが飾られ寛げる居室となっています。また、衛生担当職員が中心に事業所全体の清掃を点検するシステムを行っており清掃も行き届き、整理、整頓され清潔で居心地の良い居室になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりやイスを設置している。又、動線の確保にも勤め安全な環境作りを心がけている。		